

(様式6-2)

## 研究成果概要

所属学校名 四日市市立中央小学校

職・名前 教諭 貝田 光

- 1 事業の名称 情報教育内地留学
- 2 留学先の名称 三重大学教育学部附属教育実践総合センター
- 3 研究主題 タブレットの機能を活用した演劇を取り入れた学習モデルの開発  
「1分間ことわざ劇場」

### 4 研究成果の概要

筆者はこれまで演劇を取り入れた授業実践を行ってきたが、児童による演劇を学習に取り入れることにより、学習内容の表面的な理解でなく、実感を伴った理解が可能になる。しかし、学習時間が長くなることや、表現が苦手な児童の緊張による意欲低下、時間不足による鑑賞した後の振り返りや意見の交流が不十分になることが課題となった。

この課題を解決するために、劇作品の長さを1分まで制限することとした。1分間の劇制作であれば、様々な学習活動に取り入れられる可能性が考えられる。本年度は題材として「ことわざの意味」を設定した。さらに、タブレットによる録画・視聴の繰り返しや、協働学習を支援するソフトウェアを用いて学習の成果を共有することによって学習の効果・効率を高めようと考えた。

そこで本研究では、児童がことわざの意味を理解し、1分間の演劇としてクラスの仲間に伝える学習モデル「1分間ことわざ劇場」を開発し、実践を通して成果と課題を明らかにし、改善することを目的とする。

本学習モデルの特徴は①劇作品を1分間に制限すること②タブレット型PCによる撮影・視聴の繰り返し③四日市市現有の協働学習支援ソフトウェア「コラボノート」での動画共有である。

学習の流れは、①ことわざの意味が伝わる1分間劇のシナリオ作成する②タブレットを活用して劇の練習する③動画共有を行って各グループの作品を視聴しコメントをする④コメントを元に最終作品を完成させる⑤動画共有をして全員で鑑賞会を行う、と進む。

劇作品を1分間に制限することは、児童にとって取り組みやすく、ことわざの意味の実感を伴った理解を促すことができた。1分の長さは練習の繰り返しを可能にし、児童の劇表現への抵抗感を下げる効果があり、1分間の制限は有効であると考えられる。

タブレットの撮影・視聴は操作性が良く、操作の習得に時間を取られず、児童が制作活動に専念することができ、画面も広くすぐに再生できるため、録画、視聴、改善の話し合いがスムーズに進み、制作意欲を途切れさせずに活動を進めることが可能である。

「コラボノート」による動画共有は学習の見通しを持たせる効果があるが、児童の反応から判断して、年齢の近い作成者の作品が適していることがわかった。

3ヶ月後の確認テストは高い正答率があり理解の定着ができていること、児童が自分の言葉を使っての意味の説明ができるようになることから、本学習モデルは実感を伴った理解につながる学習活動であると考えられる。

児童がさらに取り組みやすくするため、ふり返しなど協働学習支援ソフトでの活用方法を研究していくこと、授業実践や児童の劇作品をもとに、今後も研修を重ね、さらに学習モデルの改善に取り組みたい。